出生をめぐる倫理研究会
公開研究会

出産をめぐる習俗と近代化
―産屋の存続と閉鎖―

戦後、病院出産が普及し、1970年代後半以降、出産の医療化が批判的に論じられてきた。本研究会では伏見裕子氏を講師にお招きし、香川県伊吹島の事例から、従来の出産の医療化論の射程と限界及び、医療、習俗と個々の妊産婦の経験の関係性について議論を深めていく。

プログラム

14:00　開会挨拶（松原洋子・立命館大学教授）

14:05　近代日本における出産と産屋
―香川県伊吹島を中心に―
（伏見裕子・佛教大学他非常勤講師、世界人権問題研究センター嘱託研究員）

15:05　休憩

15:20　指定質問（吉田一史美・立命館大学専門研究員）

15:40　ディスカッション

17:00　終了

司会：由井秀樹（立命館大学専門研究員）

日時：2016年3月26日（土）、14:00-17:00

場所：Kyoto de Meeting
（京都市南区東九条西山王町16－5
アーチウェイH・C　5階［京都駅八条口から2分］）

＊参加無料、申込不要

主催：立命館大学生存学研究センター若手研究者研究力強化型プロジェクト「出生をめぐる倫理研究会」
問合せ先：立命館大学生存学研究センター
（ars-vive@st.ritsumei.ac.jp）